

子どもの冒険教育プログラム体験と親の子育て感に関する研究

～子どもの情動知能の変化に着目して～

石部 竜太 (生涯スポーツ学科 野外スポーツコース)
指導教員 黒澤 毅

キーワード：冒険教育プログラム体験、子育て感、情動知能

1. 序論

「EQは思春期の頃までに学習しなければならない。然るべき時期に然るべきEQを損なうと、大人になって修正するのは何倍もの苦勞が必要となる」とダニエル・ゴールマン¹⁾は述べており、EQすなわち情動知能を習得することは現代の子どもにとって必要不可欠なものである。また、子どもの情動知能の習得に重要となってくるのが親の子育てである。親の子育てのひとつで子どもの情動知能の発達や生きるスタイルが方向づけられると言っても間違いはないだろう。

そこで本研究では、子どもの情動知能の発達に影響を及ぼすとされる冒険教育プログラムを通して、親の子育て感に変化がみられるかを明らかにすることを目的とする。

2. 研究方法

【対象者】2011年3月25日～3月31日(6泊7日)に実施されたマウンテンバイクとハイイクで沖縄本島1周する「沖縄本島1周BW」に参加した子どもたち(11名)とその親(父親6人、母親10人)を対象者とした。プログラム概要を表1に表した。

表1 プログラム概要

1日目	開校式・準備	5日目	マウンテンバイク(約90キロ)
2日目	マウンテンバイク(約90キロ)	6日目	マウンテンバイク(約80キロ)
3日目	マウンテンバイク(約80キロ)	7日目	閉校式
4日目	ハイイク(約40キロ)		

【調査方法】情動知能：内山ら²⁾が作成したEQS(65項目3領域9因子)を筆者が対象者に合わせ、それぞれ3つの領域から6項目計18項目に修正を加えて使用した。なお調査時期は、pre(プログラム前)、post1(プログラム直後)、post2(プログラム1ヶ月後)である。

親の子育て感：鈴木ら³⁾が作成した養育態度尺度(30項目3因子)を使用した。またプログラム前後の親子の変化や子育ての事を詳しくするために独自に作成した質問用紙をそれぞれpre(プログラム前)、post2(プログラム1ヶ月後)に調査した。

3. 結果と考察

子どもの情動知能はpre-post1間、pre-post2間にかけて有意に向上した。領域別の『自己対応』と『状況対応』においてもpre-post1間、pre-post2間にかけて有意に向上した(表2)。養育態度尺度では『統制のかかわり』因子にpre-post2間に有意な傾向が見られた(表3)。

表2 情動知能の平均と標準偏差
(Wilcoxonの符号付順位と検定)

	N	pre post1 post2			Z値		
		M(SD)			pre-post1	post1-post2	pre-post2
情動知能得点(全体)	11	69.3(12.58)	76.3(5.82)	77.3(7.67)	-2.674 **	-0.255	-2.821 **
自己対応	11	23.8(2.96)	26.9(2.02)	26.2(1.77)	-2.821 **	-0.806	-2.259 *
状況対応	11	22.0(5.56)	24.3(3.35)	25.1(3.98)	-1.899 †	-1.015	-2.403 *

** p<.01 * p<.05 † p<.10

表3 養育態度の平均と標準偏差
(Wilcoxonの符号付順位と検定)

因子	N	pre post2		Z値
		M(SD)		
受容・子供中心のかかわり	16	4.0(0.51)	4.1(0.55)	-0.382
統制のかかわり	16	2.9(0.55)	3.1(0.40)	-1.681 †
責任回避のかかわり	16	2.3(0.67)	2.3(0.55)	-0.028

† p<.10

すなわち、冒険教育プログラム体験によって、他者と協力し、自分自身と向かい合うことで子どもの情動知能の『自己対応』、『状況対応』領域得点が向上したと考えられる。子どもの変化と共に親の『統制のかかわり』因子が向上したのは、子どもが成長したからこそ、新学期を迎えるにあたって家族での達成志向が上がったのではないかと考えられる。また、情動知能得点の向上が著しかった1班の父親・母親を検討してみると、父親・母親とも『統制のかかわり』因子得点がpreよりpost2の向上していた(表4参照)。このことから子どもの情動知能の変化の大きい方が、親の子育て感にも変化を与えようとする。それは母親の自由記述から、1週間子どもから離れることで過度に心配し、さびしく思う傾向が強いことからうかがえた。

表4 子どもの情動知能得点・親の養育態度得点の比較(1班)

1班(N=4)	情動知能得点			対象者	養育態度得点			対象者	養育態度得点		
	pre	post1	post2		pre	post2	pre		post2	pre	post2
	平均との差				平均との差				平均との差		
全体	61.7	72.7	71.0	受容	0.31	0.41	受容	0.74	0.84		
				統制	-0.66	0.24	統制	-0.17	0.28		
				責任回避	0.19	0.31	責任回避	-0.7	-0.45		
	対応領域			対応因子			対応因子				
自己	22.0	26.5	24.5	父親(N=1)	受容	4.00	4.10	母親(N=4)	受容	4.47	4.57
対人	21.7	24.5	23.7		統制	2.20	3.10		統制	2.67	3.12
状況	18.0	21.7	22.7		責任回避	2.10	2.60		責任回避	2.95	2.70

4. まとめ

冒険教育プログラム体験によって、子どもの情動知能が向上し、個人差はあるものの親の子育てで父親・母親とも『統制のかかわり』因子に変化あつたことが明らかになった。また、母親の自由記述から、これからの親子関係は、親の子離れが必要ではないかと考えられる。

引用参考文献

- 1) ダニエル・ゴールマン(1996):EQ-こころの知能指数-、土屋 京子訳、講談社
- 2) 内山喜久雄、島井哲志、宇津木也介、大竹恵子(2001):EQSマニュアル、事務教育出版
- 3) 鈴木真雄・松田惺・永田忠夫(1985)子どものパーソナリティ発達に影響を及ぼす養育態度・家庭環境・社会的ストレスに関する測定尺度構成 愛知教育大学研究報告

